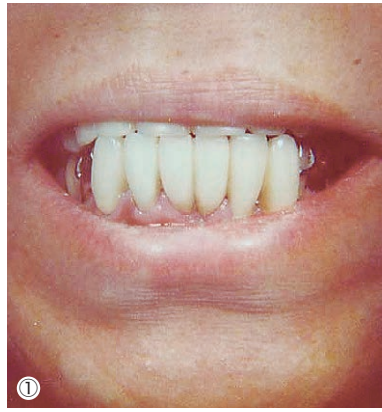
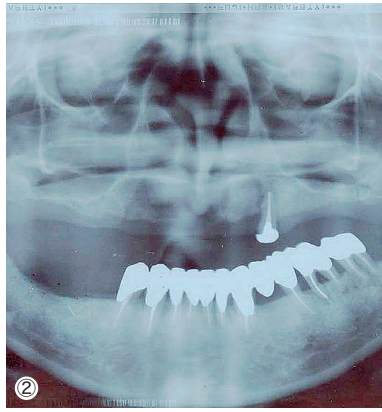
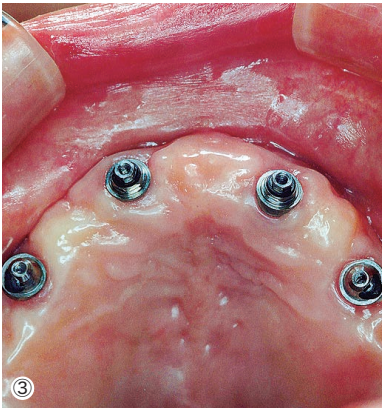


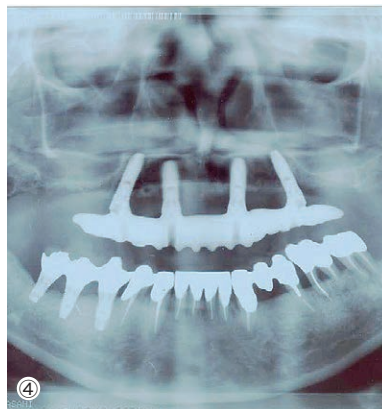
インプラントで審美性とかむ機能を回復 患者さんの自信と笑顔を取り戻す



①術前写真 ②レントゲン写真
③術後口腔内写真(上顎)
④術後レントゲン写真(上下インプラント埋入)
⑤術後写真



インプラントの利点を生かした義歯固定装置



ナビ画像をリアルタイムに確認しながら治療



親子三代にわたり、地域の歯科医療に携わって約半世紀。以前から力をいれているのが、失った歯の機能を回復するインプラント(人工歯根)治療だ。事故、ケガ、また虫歯や歯周病などで歯を失った場合、治療法は「入れ歯(義歯)」「ブリッジ」「インプラント」のいずれかとなる。

入れ歯は、固い物を噛むのに不安を覚え、見栄えや口臭を気にする人も多い。その中でインプラント治療では、あごの骨に金属の支柱を埋め込んで人工歯を固定するため、他の歯に負担をかけずに天然歯と同じような噛む力を取り戻すことができる。見た目も自然で、普通に歯磨きができるので手入れもしやすいのが特長となる。「入れ歯にはどうしても違和感があり、また外れやすくなってくる等の不具合が発生します。これも調整をすればいいのですが、介護を

受ける方は通院すること自体が難しく、治療を受けづらくなっていきます。入れ歯を外してしまえば食べ物を咬めなくなってしまう、窒息の危険性もあるため、流動食だけの食事になってしまいうケースも。将来介護などを受けるようになる前に、インプラント治療を(今のうちに)、受診させられる患者さんも多くいらっしゃいます」と江畑院長は教えてくれた。

またブリッジは欠損部の両隣の歯を削らねばならず、結果的に健康な歯をも弱め損なう危険性ははらんでいる。「実は最近、比較的若年層の方からもインプラントについてのご相談が多く寄せられます」と江畑院長。天然歯に近い機能を保ち、それを長く維持できる結果、ブリッジや入れ歯に比べて機能性と審美性を兼ね備える点において、インプラントへの関心が総じて高いのだという。



院長 江畑 典幸

1996年日本歯科大学卒業。日本学術振興会特別研究員、北海道大学大学院歯学研究所修了(口腔外科学)、カナダトロント大学留学を経て歯科医院勤務。2004年江畑歯科クリニック院長に就任。日本口腔インプラント学会会員。歯学博士。(一社)苫小牧歯科医師会会員。YAGレーザー臨床研究会会員。

医療法人社団 江畑デンタルクリニック **江畑歯科クリニック**

☎(0144)33-3999

苫小牧市表町1丁目2番19号

←ホームページはこちらから



歯科・歯科口腔外科

診療時間／
月・火・木・金／8:30～12:00 13:00～18:00
水・土／8:30～12:00
休診日／日・祝日

